

【別紙】 令和3年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立 青木中 学校)

(A4判横)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	心を磨く(徳力)・身体を磨く(体力)・智性を磨く(知力)
目指す学校像	心の教育を基盤とする「文武両道」を実践し、地域から信頼される学校

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	
学校関係者(教職員を除く)	6名
事務局(教職員)	4名

学 校 自 己 評 価					
領 域	年 度 目 標			年 度 評 価 ( 令 和 4 年 2 月 1 4 日 現 在 )	
	現状と課題	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
組織運営	・伝統を継承しつつ働き方改革とコロナ対応を進められた。2,30歳代の本校在職5年未満の教職員が多いが成果や実績を引継ぎ、新たな体制にあった人材育成と組織改善を実施していく。	・青木中の教育活動の核となる道徳教育の推進を委嘱研究本発表に向けて全校体制で組織的に取り組み、各分掌組織の連携を密にし、「ハートフル青中」の取組をより一層推進する。	・新学習指導要領の全面实施を踏まえて、本発表を核とし、全校体制で委嘱研究を行い、各分掌組織が有機的に機能するよう、全教職員の共通理解・共通行動の徹底を図る。	・コロナ対応は安心安全に配慮し、伝統を継承しながら学校行事等を実施できた。教職員はお互いに声をかけながらチームで対応し、それぞれの経験年数に応じた分掌の仕事を行った。	A ・コロナ禍における対応をしつつ、より効率的で計画的組織的な対応を目指していく。 ・研究委嘱本発表の成果を継承し、教育力を更に高めていく。
教育課程	・GIGAスクール構想に伴って導入されたPCタブレットの活用を進めた。一人一人に応じた指導の充実と学習習慣の確立に課題がある。	・全ての生徒の学力向上を推進するために、対話があり、深く・広く考える力を育てる授業を進める。PCタブレットの活用を更に進める。	・授業で、わかる、できる、伸びるを実感できること、生徒と教師の信頼関係を築くこと、生徒に自信を持たせることを目指すために指導方法を工夫し、学習内容の確実な定着と学ぶ意欲の向上を図る。	・1年から3年へ学年が上がるにつれて学力が高まっている。 ・わかる、できる、伸びるを実感する授業の実現に向けてPCタブレットの活用を含めて教材研究を行った。 ・家庭学習の充実や補習の実施は、継続して取り組む。	B ・基礎学力の確実な定着に向けて、生徒の理解力や学習の定着度を見極め、家庭学習や補習を含め全校体制で進めていく。 ・日々の授業でPCタブレットを有効に活用していく。
開かれた学校づくり	・コロナ禍で、地域の人々を学校に招く取組は、健康と安全に配慮して随時実施について検討してきた。学校HPや保護者メールを活用した情報発信を積極的に進めることができた。	・本年度学校運営協議会の設置により、コミュニティスクールとしてスタートする。 ・学校HPや保護者メールの活用を進め、地域目線で学校からの発信を充実する。	・PDCAサイクルを基にした学校関係者評価結果を活用し、地域と一体となって子供たちを育む学校づくりを進める。 ・学校HPと併せて、市の保護者メールも活用し、情報を発信する。	・学校HP・保護者メールを活用し、情報発信を積極的にできた。 ・コロナ禍、無観客で行事を実施するなど、地域と直接的な交流は十分でなかった。 ・学校運営協議会を年3回実施できた。	A ・オンラインを活用するなど授業参観や行事など保護者が生徒の活動を見る方法を工夫する。 ・コロナ禍で感染予防対策をとりつつ、地域との交流の機会を考えていきたい。 ・制服の検討を更に進めていく。
教職員の資質向上	・経験年数、それぞれの教員の意欲や特徴に応じて仕事を割り当て経験が積ませることができた。経験年数の少ない教職員が多いことから、社会人としての視野も広げていきたい。	・管理職のリーダーシップのもと、ベテラン教員の指導力を若手教員へ継承させる。経験年数の少ない教職員を向上させる。	・若手教員を各種主任等の中心に積極的に充て、育成を図る。 ・諸会議等で、積極的な意見交流させることで、視野を広げさせる。 ・服務規律を確立し、危機管理意識を高める。	・学校運営参画意識を高め、教員の意欲や特徴に応じて仕事を割り当て経験が積ませることができた。 ・働き方改革を推進したが、若い教職員が多いことから、社会人としての視野を広げていきたい。	B ・多様化した教育相談や生徒指導に対応するため、実践的な研修を充実させていく。 ・人事異動で新たに着任した教職員を含めチームとして取り組めるよう、本校教育活動の理解を深め共通行動をとる。
施設・設備等の管理	・コロナ禍における校内における安全対策を進めることができた。 ・トイレ、下水道など大規模な修繕箇所について市教委と連携をとりながら今後も計画的に進めていく。	・司書教諭、学校図書館司書を中心に生徒が足を運びたい図書館運営を目指す。 ・校務PCの活用を推進し、ペーパーレス化の促進、費用対効果のある予算執行を行う。	・コロナ禍における計画的な修繕活動を行う。 ・予算面で図書購入費を充分に確保し蔵書を充実させる。 ・校務PCの活用し、効率的な職務を遂行する。	・コロナ禍における図書館の活動を図書館司書に進めた。 ・体育館のエアコン工事を終え、次年度トイレ改修がある。市教委と連携をとりながら今後も計画的に進める。 ・費用対効果の検証結果を有効に活用していく。	A ・予算に限りがあるが、清掃等学校の努力で賄えるものは努力していく。 ・教室棟3Fエアコンの改修など早急に計画的な修繕に取り組む。

学 校 関 係 者 評 価	
※実施日	令和 4 年 2 月 1 6 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・コロナ禍でもできるように、教育活動を見直し、工夫して取り組む学校の対応に感謝する。 ・青木中生徒が大人に対して、正しい言葉遣いができるように、家庭と連携して教育力を高めて欲しい。	
・生徒の学ぶ意欲を高め、学習習慣を定着させるなど、小学校との連携を強化して青木中の教育力を更に高めて欲しい。	
・オンライン授業はすぐに質問ができなかったり、声が聞きづらかったり弊害もあるようだ。研究を進め、従来の対面授業と併せてバランスよく取り組んで欲しい。 ・学校評価をもとに新たな対応をしていることが評価できる。今後も引き続き、生徒や保護者の話を聞きながら丁寧に進めて欲しい。	
・生徒のために長時間働いている先生方がいることは大変ありがたいが、心身の健康面が心配。今後も青木中の働き方改革をしっかりと進めていただきたい。	
・現状通り、今後も計画的に修繕等を進めて欲しい。	